

編集後記

(61巻 第6号 2015年6月)

「医療ツーリズム」という言葉をどこかで聞いたことがあると思う。辞書的には「居住国とは異なる国や地域を訪ねて医療サービス(診断や治療など)を受けること」と定義され、安い手術代や高度医療技術などを求めて、先進国はの患者や途上国の富裕層患者などが他国へ渡航するものが中心となっている。アジアは医療ツーリズム先進地域で、シンガポールやタイなどは国策として推進しており、外貨獲得などの点で成功していると聞く。日本政府も日本の持つ豊富な観光資源と「おもてなし力」で、将来の成長戦略の1つと考えているらしい。

シンガポールやタイなどと異なった文化や制度を持つ日本に医療ツーリズムはなじむのだろうか。医療資源の偏在が起こって医療崩壊を助長しないのだろうか。将来の医師過剰を予測しながらも新しい医学部を新設するという施策の裏には医療ツーリズムの推進があるのかもしれない。

(小川 修)